



夢の本棚

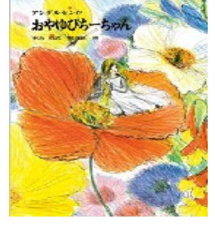
発行所：松居直コレクション
プロジェクト
代 表：金戸 美紀子
事務局：石川県小松市
小馬出町10-3
空とこども絵本館
☎ 0761-23-0033
bookrin@city.komatsu.lg.jp

【活動方針】①絵本の楽しさを伝える〈親子読書の奨励〉②絵本の歴史を学び、進むべき方向を考える〈絵本文化の研究〉
③市が所有する知的財産として、次世代に正しく伝える〈絵本文化の継承〉

「じじい」とも アンデルセン童話が惹きつけるもの

絵本にはならない

◆アンデルセンの原作を読めば読むほど絵本にはならないんです。なぜか。アンデルセンという人は、言葉で全部、絵を描いてありません。普通なら挿絵になるところを、普通なら書かないだろうと思うようなところまで言葉にしている。絵の入る余地はありません◆そういう私も、『おやゆび姫』なんかを絵本にして出しております。



アンデルセン作
木島始訳/堀内誠一画
福音館書店1967年刊

『おやゆびちーちゃん』というタイトルで出しました。あの物語の一番最後のところで、「マーマー」というあなたの名前は醜い名前だから変えなさい」と王子様が言うんですけど、日本では「おやゆび姫」と訳したもんですから「非常にいい名前です」ってことになるんです◆ところが、木島始君が訳をしてくれて、自分のお子さんに自分の訳した文章を繰り返して繰り返して読んでるうちに、お子さんが「おやゆび姫っていいのよ、おかしから、おやゆびちーちゃん」というのにしたらどお？」とアイデアを出すんですね◆「おやゆびちーちゃん」なら子どもっぽい名前ですから、マーマーという名前を変える物語の趣旨が活きてくるわけですね。

でも絵本にしたい

◆「アンデルセンは絵本にしたい」という気



いて、二人で徹底的に話し合って新しい印刷方法を取り入れたりしました。

最高の「ハンド」で



浜田広介案/秋野不矩画
10号/1957年1月号

持ちを失っていませんでしたので、絵は堀内誠一さんにお願ひしました◆『おやゆびちーちゃん』は、ヨーロッパの北から南までの気候の変動と風土の変動をよっぽどよく知ってないと描けないんです。北から南へずーっとツバメが飛んで行くわけですから。堀内さんは、たまたまヨーロッパに住んでらっしゃって、ほんとに北から南までそういう風土の違いと季節の違いを描ける人だと思いました◆絵本では絵を見せるんじゃなくて、絵で物語を語るんですから、堀内さんは、アンデルセンを自分の中にちゃんと取り込んで、どこを絵画にして、どういうふうに変化させて描いていくかといったことができる人だと思えました◆そして、絵の描き方や線、印刷の仕方につ

◆次に手掛けたのが、また日本の昔話の『うりひめとあまのじゃく』です。浜田広介先生に再話をしていただいて、絵は、秋野不矩先生にお願いしました。後で文化勲章をお貰いになる方ですけども、女流の日本画家としては最高の方です。京都の美大の教授をずーっとしてらして、秋野先生のお弟子さんという人もたくさんいます◆私は、秋野先生の日本画がほんとに好きで、とっても気品があって優しいものが感じられるんですね。かといって、絵はそんなに優しいだけじゃないんですね。芸術家としてはたいへん

★アンデルセン童話が普及した大きな理由は…自分の作品を何度もくり返して、人前で朗読している。これは朗読している人の反応を確かめるためだっただけではないか…その

作品の世界を言葉だけでイメージする工夫が素晴らしいです。…耳からイメージだけだと聞き取りにくいから、しっかりとイメージができる。→「松居直と『こどものとも』」(ミネルヴァ書房 2013年刊)より

厳しい方ですから、非常に厳しいところもありました◆秋野先生にたまたまお目にかかることができましたので、「絵本をお願いできますか」と言ったら「喜んで描かせていただきます」とおっしゃってくださったんです。浜田広介先生は、日本で最高の童話作家ですから、それと「秋野先生とのコンビならいいだろう」というふうに私は思ってお願ひを致しました。(つづく)